

會 議 錄 要 旨

会議名		令和6年度 第6回藤沢市下水道運営審議会									
開催日時		2025年（令和7年）1月29日（水）午前9時56分～午後0時16分									
開催場所		本庁舎5－1、5－2会議室								傍聴者数	
										0人	
出席者	会長	杉渕 武									
	委員	稲田 圭祐 下川 依里奈	井上 美鈴 関口 洋史	後藤 厚 仲 倫子	小林 敦子 渡井 大輔	佐藤 靖典 和田 洋					
	事務局	近藤下水道部長 [下水道総務課] 張ヶ谷参事 草柳主幹 山口主幹 亀ヶ谷補佐 小松補佐 鈴木補佐 砂川補佐 外山専任補佐 吉原専任上級主査 伊勢崎主任 中澤 [下水道管路課] 鈴木課長 毛利補佐 矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事 竹内辻堂浄化センター長 佐藤大清水浄化センター長 田中補佐 鷺塚補佐 伊澤補佐 日向補佐 原担当 高橋担当									
議題及び公開・非公開の別		1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の実施状況 （令和6年度実施見込み・令和7年度実施見込み） その他（公開）									
非公開の理由											
審議等の概要		《議題》 1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の実施状況 （令和6年度実績見込み・令和7年度実施見込み） （資料1－1～5に基づき説明） 【質疑】 ＜基本方針1＞ （1）事業2ストックマネジメント事業の（3）管路改築や、事業6下水道施設の浸水対策事業の（1）浄化センターポンプ場の耐水化など、単年度の進捗状況で見ると上下のぶれが大きい。7年度末時点で、最終到達点の何%という説明をしていただいた方が状況を判断しやすいと思いますが、そのような管理手法はないのでしょうか。 《回答》 委員ご指摘のとおり単年度より累計の方が情報が分かりやすく比較しやすいと思いますので、改めて検討させていただきます。 （2）工事費が高騰してきている中で、中期経営計画の事業量に対する事業費について収支計画との乖離が生じているのではないかと心配しています。コスト高の年次計画への影響について見通しがあるのでしょうか。 《回答》 公共積算においても金額が1～2割高くなっているという状況があります。それらを踏まえて再度収支の財政シミュレーションを行った中で、経営指標を見ながら事業の検討をさせていただきます。 （3）単年度の目標に対して実績が小さかった場合、実施できなかった分は後ろ倒しになっていくということだと思いますが、今回の資料はもうそれが反映されているのでしょうか。 《回答》 達成できなかった分は今後令和8、9年度に実施していきたいという思いはありますが、物価高や収支バランスの影響で実施できない分については、中期経営計画後半の5年間の見直しの中で、前半の5年間の経過を踏まえて再検討します。									

審議等の概要	(4) 例えば管路改築では令和6年度は見込みが53%となっていますが、残りの47%は予算がないからできないのか、それとも何か他の要因があるのでしょうか。令和7年度の73%というのは、100%の目標に対して最初から予算が73%しかついていないということなののでしょうか。 《回答》 予算要望時において設計等を終えて工事発注できる延長を計上していますが、それが目標の1.5kmを満たしていない状況でした。ここで実施できなかった分は令和8、9年度に毎年1.5kmとは別で実施するよう準備しております。老朽化対策については、平均してどれくらい行うという目標は定めましたがどのように行っていくか調査しながら進めている状況で、軌道に乗せるためにだんだんと数字を伸ばしていくような形で、しばらくは計画値より低く、後半で追いつけていきたいと考えています。 <基本方針2> (5) 令和6年度の見込みについて、下水道施設の浸水対策事業は32.5%である一方で、避難施設等からの排水を受ける管路の耐震化は0%となっており、上振れと下振れが激しい。計画に対する事業実施の考え方や事業運営が円滑に行われているのか、市民への説明はどのように行うのかを伺いたい。また、組織改正により下水道は道路事業と同じ部になるとのことですが、下水道事業の計画的な運営に影響がないのでしょうか。 《回答》 管路の耐震化については、国の交付金の追加補正に合わせた事業の前倒しにより本来令和6、7年度に実施予定だった事業を令和4、5年度に前倒した結果、令和6年度は0%になったものです。また、令和7年度もその先からの前倒しにより24.4%となり、令和7年度時点での累計と比較すると計画よりも進捗が図れる予定です。施設については令和5年度事業の繰越を行ったことにより令和6年度のポイントが高くなりました。 市民への説明については、審議会での審議に加え、その資料をホームページで公表するなどして市民の皆様にも見えるようにしています。 組織改正で下水道が道路と一緒にしても、下水道事業会計の予算は一般会計とは区別して企業会計の独立制を担保した中で組織運営を行ってまいります。 (6) 情報発信を行う際に、受け取る側が関心を持っていない情報を流しても意味がなく、受け取る側がそのことに敏感になっている時に流すと非常に効果大きい。現在、陥没事故を受けて市民の皆様も藤沢は大丈夫かと心配になっていると思うので、臨機応変な情報提供をお願いしたい。 《回答》 経営計画に関することだけでなく様々なPRを行っていくことを中期経営計画に記載しており、様々な機会を捉えて色々なことを行うことができていると考えております。本日いただいたご意見を参考にできることを検討していきたいと考えております。 (7) 事業の進捗については単年度ではなく5年間でどういう進捗があるのかが重要だと思います。例えば事業6の(1)浄化センターポンプ場の耐水化であれば、5年間で100%を達成した時のトータルポイントを分母、現時点での達成ポイントを分子にして達成率を評価するなど、5年間でトータルの進捗状況が分かる見せ方をする必要があります。 《回答》 中期経営計画のP.59に5年後の短期目標、10年後の中期目標で捉えた達成目標を記載しています。昨年の審議会において、5年後の短期目標に対する令和5年度決算での到達度をご報告しましたが、令和6年度の決算が決まったら令和6年度の到達度についてもご報告できればと考えています。 <基本方針3>事業10(2) (8) マイクロプラスチック、PFASについて調査はしていても分析までは行っていないということでしょうか。 《回答》 PFASについては今年度中に分析する予定です。マイクロプラスチックは測定方法が統一されたものができておらず、どのような方法で行うか検討段階にあります。 (9) PFASがある程度検出された場合の浄化センターでの対応策について検討は進んでいるのでしょうか。 《回答》 幾つかの自治体で入ってくるものと出ていくものとを調査している中では結果がまちまちで、浄化センターの中での挙動がまだつかめていない状況にあります。
---------------	---

審議等の概要	<基本方針3>事業13 (10) グリーン電力の購入というのは市の方針として決定しているのか、または下水道部としての方針なのでしょう。 《回答》 環境部でとりまとめている市全体の方針としては、公共施設の屋根への太陽光発電の設置が第一で、その次がグリーン電力の購入です。下水道部としては太陽光発電とグリーン電力購入について検討した中で、グリーン電力購入の方が有効と考え、そちらを最優先とし太陽光はその次としています。下水道部としてそのように取り組むことについては予算要求の段階で了解をとっていますので、市の方向性として本日中期経営計画の取組状況と併せてご報告しました。 (11) CO₂排出量の内訳の水処理に伴うメタンと、水処理に伴う一酸化二窒素の数値の計算方法と、削減する方法があるのかということをお願いしたい。 《回答》 計算方法については、下水道で処理した水の量に排出係数をかけて算出しています。それらは現状では削減する技術が検討中で方法が見つからないため、電力の方でその分も含めて削減する必要があります。 (12) グリーン電力購入が柱ということは理解しますが、ビジョンの中で書いてあるような色々な調査・検討を行っていることからすると、それだけだと残念な結論であると思います。環境部でペロブスカイトの実証実験を行っていることも伺いましたが、下水道は土地も多くあり、電力も非常に消費するという大きなテーマを持った部署であるので、(2) 新エネルギー機器の導入推進による削減についても、他の部署と連携しながら行っていただきたい。 《回答》 資料3のP.13において、新エネルギー（太陽光発電）導入推進に関して技術的進展の動向を踏まえながら、合理的な導入手法を含めた総合的な検討を継続するとしています。ペロブスカイトの実用化や、太陽光パネルを将来的に廃棄する際の課題などの動向を注視しながらタイミングを図ってまいります。 <基本方針3>事業14 (13) 汚泥や焼却灰は現在どのような処理をしているのか、コストも含めて教えてください。 《回答》 焼却灰については産業廃棄物として搬出しており、建設骨材などに活用されています。脱水ケーキは基本的には辻堂浄化センターで一括して燃やしていますが、辻堂浄化センターでのリスク発生時に備え、一部産業廃棄物として場外搬出するルートを確保しています。その場合、セメントの原料やコンポストとなっています。焼却灰の処分については令和5年度の実績で1,175万円ほどでした。 <基本方針4> 【意見】下水道フェアは市民の方に下水道を知ってもらう一番最初のツールとしても良いと思います。計画・運営には人手もかかり大変だとは思いますがぜひ続けていただければと思います。
その他	(1) 下水道PR事業の報告【施策15関連】 (県下水道公社作品コンクール審査結果) (2) 令和7年度藤沢市下水道運営審議会日程 (3) 下水道事業PRアドバイザーの報告